

選択的プレイ状況における信頼行動と協力関係 依存度選択型囚人のジレンマゲームを用いた実験研究

寺井滋・森田康裕・山岸俊男

キーワード： 協力，信頼，信頼ゲーム，コミットメント形成

本研究は、信頼関係・協力関係の形成・維持に関してこれまで独立に研究が進められてきた2つの研究の流れを1つに結びつけることにより、新たな問いとそれに対する解答を提出するものである。第1の研究の流れは、囚人のジレンマゲームをもとに、協力行動(他者との共同利益を増やすためにコストを払う行動)と信頼行動(相手の協力行動を期待して自分の利益を相手に委ねる行動)とを独立に測定することのできるように改良された、「依存度選択型囚人のジレンマゲーム」を用いた研究の流れである(Cook, Yamagishi, Cheshire, Cooper, Mashima, & Matsuda, 2002; 垣内・山岸, 1997; 真島・山岸・Macy, 2002; 真島・山岸・松田, 2001; 松田・山岸, 2001; 寺井・森田・山岸, 2001; Yamagishi & Kakiuchi, 2000)。第2の研究の流れは、通常の囚人のジレンマ研究で想定されているような固定された2者関係ではなく、(3者以上の) n 人集団に含まれる各個人が互いに選び合い2者関係を形成する状況を考えることで、従来解けなかった問題「無条件協力の適応性の説明」を解いてきた「選択的プレイパラダイム」の流れである(林, 1993, 1995, 1996; 林・神・山岸, 1993; 林・山岸, 1997; 神・林・篠塚, 1993; Yamagishi, Hayashi, & Jin, 1994)。